

# 人権と選挙と新型インフルエンザと



「はぐるまさんは選挙はど  
うなさっていますか」と横浜  
地区のグループホームの施

設の方からの質問に改めて  
選挙権を持っている仲間達へ  
の支援を考えさせられま  
す。

偏見や差別を受けやすい  
社会で、どこへ向かった支  
援なのか精神・知的障  
害者支援の在り方に問わ  
れています。自分で決める  
力をつける事を支援する  
と云う事の具体的社会参  
加の一つとして今回の選  
挙が重要な位置を占めて

自立支援法改正案を始めとして次々と  
福祉現場に対しての施策の動向に多大の影響  
を与える衆議院議員選挙です。

一方、厚生労働省の新型インフルエンザに対  
しての見解は、連日報道されていますが予防  
接種用のワクチンは当然今までも用意すべ  
きであつて、問題は対処方針の考え方に人権  
差別があつてはならない事です。

受け皿としての国民や私達施設側は推移を  
見守りながらも強い絆と覚悟を自覚しつつ、  
精神・体力を鍛えて行きましょう。  
様々な困難に委縮することなく、立ち向か  
う力は登山合宿への取り組みにも象徴されて  
います。  
元気に無事に九月一日〜三日登山合宿へ  
行つて来ます。

No.45号

2009年8月28日

社会福祉法人  
はぐるまの会

広報委員会  
後援会

川崎市多摩区首馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

新型インフルエンザ

流行宣言 発令

前号で今秋の流行に注意しましょうとの、記  
事を載せたばかりで、なんとも早い展開にな  
りました。夏季登山を控えて、体調管理には  
神経を使う時期でもあり、今後の緊急に備え  
る体制を整えています。

看護師の江口さんから、仲間の手洗い・うが  
いの習慣を付けるのは、非常に難しいとお話  
もありましたが、言い続ける事と、見守り支  
援を続けることで、予防をしていきたいと思  
います。早速仲間集会で、手洗い・うがい指導  
をしていただきました。

作業所・ホーム・家庭で、徹底していきましよう。

発熱や新型インフルエンザと診断された場合の緊急体制・連絡の仕方については、別紙を参照して下さい。

仲間のほとんどが、作業所・ホームでの生活を送っていますので、はぐるまの職員が対応する確立が高いのですが、自宅生あるいは、土日の帰宅時に発症することもあります。保護者の方は、まず発熱センターに連絡の上、病院に行くこととなりますが、同時に各所属の作業所・施設長(いない場合は職員)に連絡を入れてください。夜間の場合はホーム責任者へ

一報を下さい。連絡を受けましたら管理者・理事長・看護師が協議の上、その後の対応を速やかに決定し、連絡網にてお知らせをいたします。

ホームの場合、狭い空間で長い時間一緒にいることが多いので、自宅待機が可能かどうか、難しい場合どのようなか等、個々の状態によつて支援体制が違ふと思ひますので、関係者と十分相談をしていきます。

## 事業報告 ①

アパートのリフォームが終わりました今年三月に法人で取得したアパートの改修工事が終了いたしましたので、お知らせします。(引越し前)

2F・本部



1F・食品加工作業所



白壁の2つの建物が所有

物件です。

左のアパートを

取得し改築しました

施設全景



21年度予算で頂いていた、改修費200万円をかけ4世帯アパートを用途にあわせて使えるようにしました。

このことによつて、第二ホームの中にあつた本部事務所が移転し、広くなった分、相部屋の仲間の個室ができることになりました。

1階の作業場は、食品を専門に扱う場所になりましたので、水場や壁・キッチン用品は新品の、きれいな作業場となっています。今後はこの場所で、新商品の開発や、ホーム調理部会の職員の、調理研修など、有効に使っていく計画です。

## 事業報告 ② ホーム建設等について

現在ある10カ所のホームは、家賃が12万円から16万8千円の範囲で賃貸契約しています。幸い大家さんの計らいで安い賃貸料で借りることができています。しかし、仲間の高齢化に対応できるような住まいとなると、車椅子使用ができるか、階段は無いほうがよく、ワンフロアで生活できるか、風呂の構造は危なくないか、防災の設備は整っているか等々

特別な配慮を要する物件が必要となつてきます。すでに階段を登り降りする生活が、大変になつてきている仲間もいますので、高齢化対策物件の検討を始めました。

このような折、三井ホーム開発部より「農協の会員と共同で、土地有効活用の事業を展開しています。今後の「はぐるま」の事業に検討の余地がありますか」との問い合わせがありました。

① 大家さんが、ホームを新築し「はぐるま」と賃貸契約をする。(設計から関わることで、でき、高齢化に対応した住居ができる。という、メリットがある)

② 多摩区・麻生区に土地を持っている方で、農作地も確保できる。(現在畑作業をしている工場の畑が、将来的にも保障できる地域である)

二つの条件が、「はぐるま」の将来ビジョンと合致しているので、三井ホームの営業さんを介して、地主さんの意向や条件を聞くことを始めています。

メリットもありますが、反面デメリットも生じます。大きいのは、ホームの家賃が高くなること。4月にホーム利用料が改正されたばかりで、再度の値上げは、仲間にとつて大変な負担増になります。この点を十分考慮の上、慎重に進めなければなりません。

今後は、事業推進委員会のメンバーが中心となつて具体的な話を聞き、理事会に提案できる資料を作成していきます。

進展があつた場合は、緊急の理事会が招集されることもあると思われまふので、情報については関係者、会員の皆様に報告を随時お知らせいたします。

### 夏休み仲間活動の報告

仲間活動、「夏休みクラブ」は8月10日から、14日までの5日間、毎日自由参加で、18人から20人の参加がありました。

午前中は、いろいろな体操(リズム運動・柔軟運動など)をして仲間の希望するDVDを見ました。2台のテレビとスクリーンを使って3つのしゅるいのDVDを見ました。

人気は「アンパンマン」「おかあさんといっしょ」「ととろ」「ポニョ」「海猿」などでした。

お昼は、ちようり実習で、ホットプレートをつかつて、自分たちでやきそばをつくりました。味は、しょうゆ味、しお味、ソース味です。

最終日の金ようびは、関田コーヒーやさんに、ランチを食べに行きました。

おやつは、かきごうりをして、楽しみました。一人一人ぐるぐるまわして、こおりがさらさら出てくるのを見ていました。シロップは、ブルーハワイがおきにいりでした。自分でぐるぐるまわすのが、とてもたのしかったです。来年はおおきくてりっぱな、かき氷機がひとつほしいと、思いました。

(仲間自治会会長 長原綾さんより)

みどり・さくら・いずみの仲間東京ドームへ

(参加者 有賀、奥田、椎名、鈴木、高橋)

### 巨人×阪神戦 観戦記

昨年は読売ランド花ハウスから声が掛かり、東京ドーム「巨人対中日」のドリームシートへ招待があり仲間達と楽しんできました。今年

から公募があると言うので応募したところ、招待されました。みどりホームで「巨人阪神戦」を観戦。今後は夏休みのひと時として、仲間達には巨人ファンが多いので行ける仲間達を増やしていけたらと思っています。引率職員の見戦記です。

椎名一郎さんは、巨人ファンということで、観戦を大変楽しみにしていました。試合は最初から阪神ペースで、ジャイアンツの攻撃で点が入らなくても、楽しんでいきます。いつもと違う夕食カレー牛丼なども楽しみの一つ。コーヒーを飲んでの観戦でニコニコ顔です。仲間の中には飽きてしまう人もいましたが、何万人の応援の中に入り、雰囲気は感じているようでした。野球場の独特の雰囲気が好き？なのか、応援団のお客さんの掛け声が始めると一緒に声を出し、手をたたいて応援し、早く帰る予定が試合終了まで楽しんできました。4対7でジャイアンツは負けてしまいましたが、「楽しかった！」と最後まで笑顔の仲間たちでした。(宇野)

昨年度に続き、花ハウスの「光と愛の事業団」さんのご厚意で八月十三日の『巨人対阪神』戦に招待していただきました。

試合当日は、伝統の一戦・夏休みという事もあり、東京ドームは超満員の状態です。仲間たちは、特別ゲートから球団のマスコットにエスコートされて入場して、はじめは少し緊張気味の様子です。

仲間たちに楽しめるかな？と心配していましたが、試合開始直後のホームラン2本で一気に盛り上がりを見せます。普段の生活では味わえない大観衆の熱狂的な姿を興味深そうに観察していたかと思うと、非日常的な空間をとっても楽しんでいるようにも見えます。その内に周りの人々に合わせての拍子や拍手、応援歌を歌い出します。「そうか、この場所は大声を出していいんだ！」周りの人達と楽しむ場所なんだ！」と素直に感じ取ったようです。

球場内での買い物や飲食は予想通りの盛り上がりを見せていましたが、観戦中の仲間た

ちの姿を見ていると、やはりスポーツには言葉では表現できない魅力があるのだという事を実感させられました。

今年は最後まで試合を観戦することができ、大満足で帰宅することができました。帰りの電車内では「巨人、負けちゃったね」と残念そうでしたが、「来年も行きたい！」と早くも来年に向けての意欲を見せる仲間もいました。

今回も日程の都合上、365日生を中心としたメンバーでの観戦でしたが、今後は、野球が好きで仲間、行ったことが無い人や興味の無さそうな仲間も充分楽しめる活動として継続していきたいと考えています。

余談ですが、私、福田は阪神ファンなので、試合中に阪神への声援も送れず、試合後は素直に阪神の勝利を喜べずに複雑な心境で帰宅する事となりました。と言うのは冗談で、久しぶりのプロ野球観戦を仲間たちと共に楽しませてもらいました。やっぱりスポーツは良いものですね！(福田)

株式会社読売巨人軍・読売巨人軍選手会様招待ありがとうございます。

## DVD『視線の先へ』

ご購入ありがとうございます

この作品をご覧になる上で参考になる映画が今話題になっていますのでご紹介します。

この映画は香港国際映画祭、ドバイ国際映画祭他多くの最優秀ドキュメンタリー賞を受賞しています。

### 観察映画「精神」から学んだこと

世間の偏見が根強いと言われている精神障害者の施設「こらーる岡山」での記録を現在、注目されている想田和弘監督の作品を紹介します。

映像編集では、ナレーションやテロップによる説明、音楽を一切使わず、複雑怪奇な現実をそのまま提示し、観客の能動性観察眼を刺激し、解釈が自由に行われるよう余白を残した。映像を観る事で、あたかもその現場を訪れ、そこにいる人々と出会い、言葉を交わしたかのような臨場感得られるよう、時間の流れと空間の再現に腐心した。

(想田氏の言葉より概略)

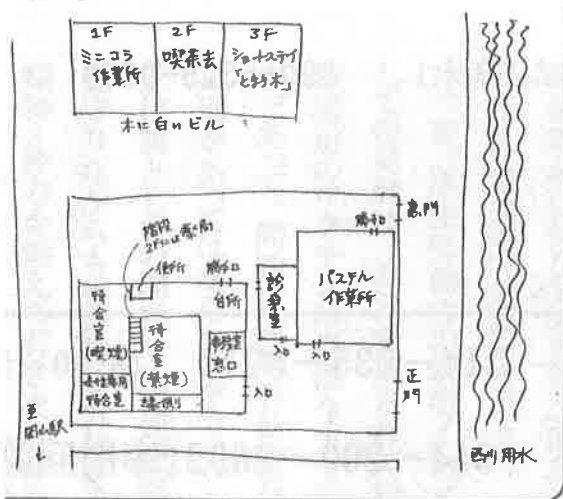
まさに「はぐるま」の中村さんの映像制作手法がオーバーラップしてきます。再度二十五周年記念映像『視線の先へ』をご覧ください。想田監督作品「精神」や「選挙」の映画鑑賞と「視線の先へ」のご購入をお勧めします。

参考までに映画「精神」の舞台となった「こらーる岡山」の紹介記事です。

(中山)

### 編集追記

ご存じ方も多いかと思いますが選挙投票所には代理選挙委員の方がいますので字を書く事が不自由な人や視覚にハンディを持つ方への支援が行われています。是非一考を！



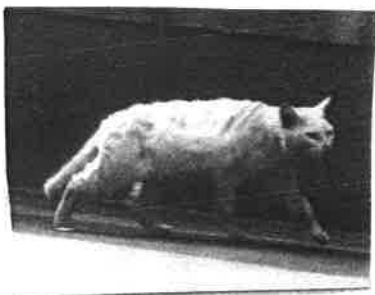
こらーる岡山は、岡山県岡山市にある外来の精神科診療所。現在も代表を務める山本昌知医師が中心になり、1997年に設立された。当事者本位の医療がモットー。「こらーる (合唱)」という名前には、「病める人の声に、それを支援する人が声を合わせることによって、合唱が生まれる」という意味が込められている。

精神障害者が、病院ではなく地域社会で暮らすための支援に力を入れており、牛乳配達をする作業所「バステル」や食事サービスを行う作業所「ミニコロ」を併設。働いて賃金を得られる場を提供している。

こらーるは他に、希望する患者が泊まれるショートステイ施設「とまり木」を運営。患者の在宅支援のためにヘルパーを派遣する「喫茶去」も、こらーるのすぐそばにある。

古い民家を利用した待合室は、畳敷き。アットホームな雰囲気、患者が自由に寝転がったり、お互いに話したりできる。撮影当時の待合室は、喫煙部屋、禁煙部屋、女性専用部屋などに区切られていたが、最近、屋内は全面禁煙になった。

毎週木曜日、患者やスタッフ有志による「活動者会議」も開かれ、小旅行や忘年会などのレクリエーションを企画するほか、会報「ユーとピア」の発行、業の勉強会、地域社会との交流活動、講演活動、行政や政治家への働きかけなどを行っている。



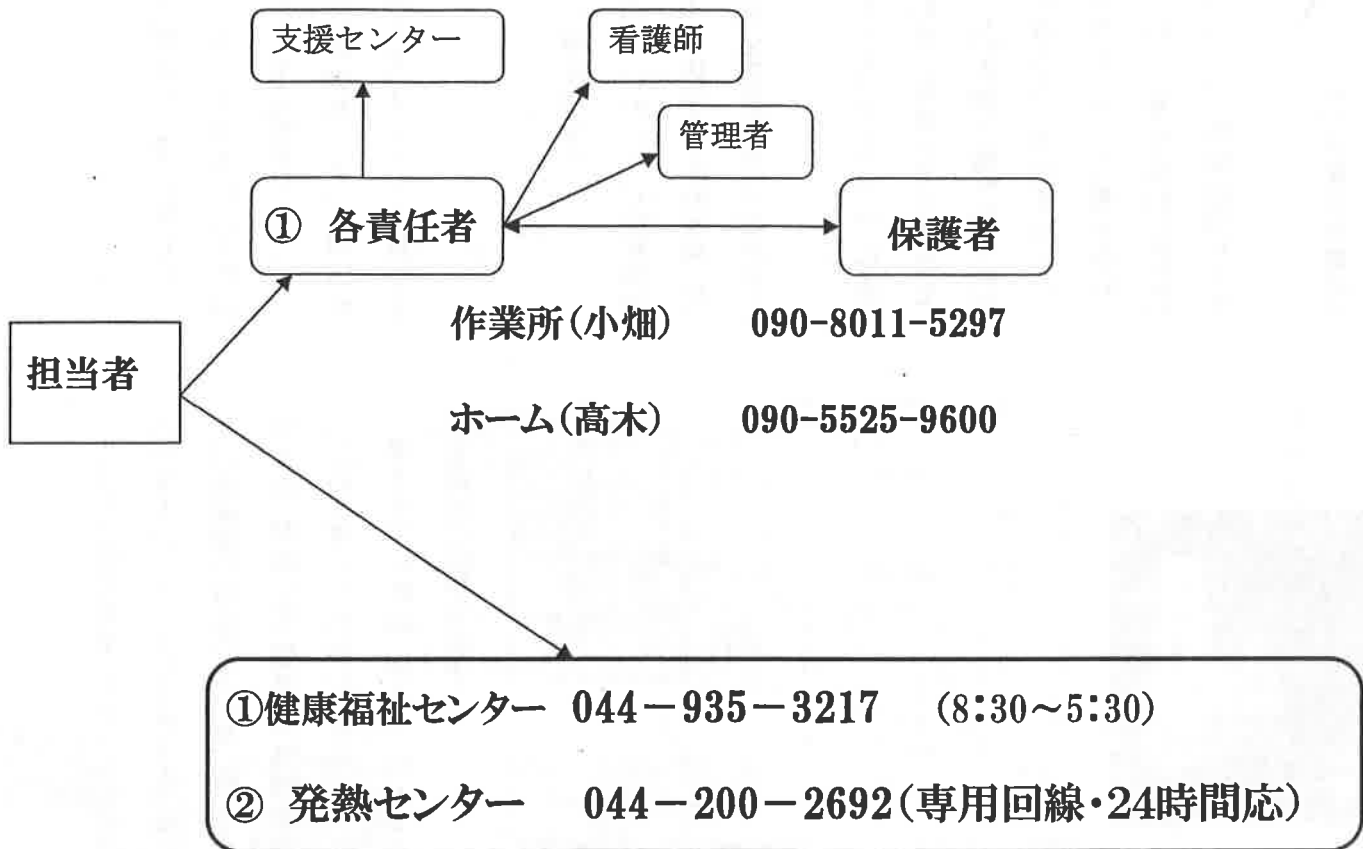
映画「精神」カタログ  
より、抜粋

発行・編集  
アステア

# インフルエンザが発生した場合の 連絡について

別紙

## (1) 仲間や職員にインフルエンザ様症状がある場



## (2) 新型インフルエンザの診断が出された場合

★ 管理者は今後の対応を関係者と話し合い、全体に知らせる

